

初 年 次 教 育 学 会

ニュースレター 第 6 号

Japanese Association of First Year Experience
at Universities and Colleges

〒921-8501
石川県野々市市扇が丘 7-1
金沢工業大学 藤本元啓研究室内
初年次教育学会事務局
Tel: 076-248-9584 FAX: 076-294-6701
URL: <http://www.jafye.org/>
E-mail: fye-jimu@mlist.kanazawa-it.ac.jp

今号の内容

1. 会長挨拶
2. 事務局からのお知らせ
3. 学会誌編集委員会からのお知らせ
4. 第 6 回大会開催報告
5. 第 7 回大会について
6. 地域研究フォーラムの開催について
7. 編集担当より

1. 会長挨拶

初年次教育学会会長 安永悟 (久留米大学)

昨年 9 月から、山田礼子先生より会長職を引き継いでおります。この間、理事や事務局の皆さんに支えられながら慣れない会長職をどうにか果たしているところです。会長は、主役である会員の皆さん一人ひとりに満足いただける学会づくりをめざして努力するサーバント=リーダーであるべきだと考えています。この信念に基づき、会長の職責を果たしていきたいと思っています。

さて、会誌の就任挨拶でも言及しましたが、私が学会に期待することは、会員の皆さんが気軽に集え、研鑽を積める場、仲間との協力・連携を通して切磋琢磨できる場、皆さん一人ひとりが活躍でき、自他の変化成長を実感できる場、そんな場として学会が認知され、活用されることです。

そのような学会の実現に向けて、理事会を中心に議論を始めたところです。現在進行中なのが、事務局機能の外部委託を含めた運営体制の再構築です。国際文献社との委託契約が整い、順次、事務機能を移転しているところです。この業務委託により、会員の皆さんに対するサービスの向上が見込まれます。また、学会活動の活性化をめざした検討も始めました。これまで年 1 回の全国大会が学会の中心的な活動でした。学会活動を活性化するためには、会員相互の交流の場や情報交換の機会を増やすことが必要だと考えています。一案として、地域にねざした草の根的な研究集会の開催・支援が可能であるか、地域活動活性化ワーキンググループを立ち上げ、検討を始めました。情報交換の場としての会誌「初年次教育学会誌」や本「ニューズレター」の役割強化についても、再度、検討したいと考えています。

理想とする学会に一步でも近づき、大学教育のさらなる改善に向け、会員の皆さん一人ひとりと心と力をあわせて前進したいと考えています。皆様のご理解とご協力、学会活動への積極的な参加を、よろしくお願い致します。

2. 事務局からのお知らせ

(1) 学会誌編集委員会編集委員長の交代について

現・藤田編集委員長の編集委員としての任期が残り 1 年のため、引継ぎを速やかに行うことを目的として、2014 年度から笹金理事（2013 年度より編集委員）への編集委員長交代が承認されました。

(2) 常任理事の交代および理事の業務担当について

2014 年 3 月 29 日の理事会において、常任理事の交代および理事の業務担当の変更が下記の通り承認されました。下線部が変更箇所です。

会長： 安永 悟（久留米大学）

会長代行： 井下千以子（桜美林大学）

理事（○は常任理事）

○井下千以子（桜美林大学）

中村博幸（京都文教大学）

○岩井 洋（帝塚山大学）

成田秀夫（学校法人河合塾）

○沖 清豪（早稲田大学）

西 誠（金沢工業大学）

川島啓二（国立教育政策研究所）

○西村秀雄（金沢工業大学）

川嶋太津夫（大阪大学）

○濱名 篤（関西国際大学）

○菊池重雄（玉川大学）

藤田哲也（法政大学）

○笹金光徳（高千穂大学）

○藤本元啓（金沢工業大学）

杉谷祐美子（青山学院大学）

○安永 悟（久留米大学）

関田一彦（創価大学）

○山田礼子（同志社大学）

田中 岳（九州大学）

横山千晶（慶應義塾大学）

理事等の分担（○が各担当内の責任者。編集委員会の「※」は非理事）

学会誌編集委員会：○笹金（編集委員長） ・ 絹川直良※（副編集委員長） ・ 足立寛※

・ 杉谷 ・ 塚原修一※ ・ 藤田

研究担当：○濱名 ・ 井下 ・ 田中川嶋 ・ 関田

広報・情報化担当：○沖 ・ 中村

総務担当：○西村 ・ 西

国際化ワーキンググループ：○山田 ・ 関田横山

地域活動活性化ワーキンググループ：○菊池 ・ 川島 ・ 田中 ・ 成田

年次大会担当：○岩井

監査：白川優治（千葉大学）・森下稔（東京海洋大学）

事務局長：藤本元啓（金沢工業大学）

事務局幹事：西村秀雄（金沢工業大学）・西 誠（金沢工業大学）・柄内文彦（金沢工業大学）

(3) 学会事務局業務、学会誌編集・出版業務の国際文献社への委託について

かねてより懸案となっていた学会事務局業務および学会誌編集・出版業務について、国際文献社への委託を進めることと致しました。2014年度中は経過措置として学会誌投稿先など一部の運用において変更が生じます。

学会誌投稿に関する変更（論文テンプレートおよび提出先の変更）については、本ニュースレター「3. 学会誌編集委員会からのお知らせ」をご確認ください。その他の学会事務局業務に関する変更につきましては、後日改めてメール等で周知いたします。

(4) 初年次教育学会誌編集規程改正について

2014年3月29日の理事会において、表記規程の一部を下記下線部のように変更することが承認されました。この改正は2012年度大会時の総会においてご報告していた内容を改めて規程に反映させるためのものです。

<旧>

第3条 本誌の発行、印刷原稿完成及び原稿提出期限の期限は、以下の通りとする。

| | 発行月 | 印刷原稿完成 | 原稿提出期限 |
|-----|-------------|-------------|--------|
| 第1号 | <u>12月末</u> | <u>11月末</u> | 5月末 |

<新>

第3条 本誌の発行、印刷原稿完成及び原稿提出期限の期限は、以下の通りとする。

| | 発行月 | 印刷原稿完成 | 原稿提出期限 |
|-----|------------|------------|--------|
| 第1号 | <u>3月末</u> | <u>1月末</u> | 5月末 |

3. 学会誌編集委員会からのお知らせ

編集委員長 笹金 光徳（高千穂大学）

2014年3月15日発行の初年次教育学会誌第6巻第1号が、すでに皆様に届いているかと存じます。次号(第7巻第1号)の編集・発行および原稿募集については、第6巻第1号の105頁に詳細が記載されておりますが、ここではその概略と発行後明確になりました変更点についてお知らせします。変更が生じた理由は、学会事務局業務および学会誌編集・出版業務を委託することになった国際文献社との契約内容によるものです。

(1) 次号の発行時期について（変更無し） 2015年3月中旬の発行を予定しております。

(2) 投稿論文の締切について (変更無し) 第7巻の投稿締め切りは2014年5月末日となります。ただし、学会誌の編集規程および論文の執筆要領に従っていない場合には、投稿論文を受領することはできません。そのような理由で返戻された論文を修正した上で再投稿する場合の期限も5月末日となります。提出期限間際に投稿された論文については、規程・要領に従っているか否かの確認が期限後となり、結果的に査読対象から外れることもあり得ます。従いまして、作成した論文が編集規程および執筆要領に則っているかどうか確信が持てない場合には、3週間程度の余裕を持って投稿することをお勧めいたします。

(3) 論文テンプレートについて (変更) 投稿論文は、論文テンプレートを使用して作成するように引き続き求めますが、これまでのようにカメラレディ原稿の状態での提出は不要となり、国際文献社がxml形式で版を組みます。論文テンプレートは、A4判で40字×40行の体裁となります。図表は本文中には埋め込まず、論文の末尾にまとめて掲載することになります。そのほかの詳細な注意事項に関しましては、4月上旬に学会Webサイトにて、論文テンプレートに原稿見本を付加して公開いたします。

(4) 投稿論文の提出先について (変更) 論文投稿用のメールアドレスは、jafye-edit@kokusaibunken.jp になります。

(5) 投稿資格および1巻あたりの投稿数について (変更無し) 共同執筆の場合を含め、論文を投稿できるのは会費を納入している個人会員および機関会員に限られます。また、1巻あたりに投稿できる論文の数にも定めがあります。詳細は、初年次教育学会誌編集規程第9条をご確認ください。

<http://www.jafye.org/index2/henshukitei.html>

4. 第6回大会 開催報告

大会実行委員長 藤本 元啓 (金沢工業大学)

平成25年度の第6回大会は、北陸金沢の南部に位置する、理工系大学の金沢工業大学扇が丘キャンパスにて開催いたしました。金沢への移動、お帰りのことを勘案し、大会期間を初めて3日間とし、初日を正午開催、最終日を正午頃に終える日程を組んでみました。

また加賀百万石の大大名前田家の城下町として発展した歴史・文学の「まち」金沢の散策、兼六園・武家屋敷・東茶屋街・近江町市場などや、近年新しい名所となった「金沢21世紀美術館」、JR金沢駅の「鼓門(つづ

みもん)」、「まちなかアート」など、ご堪能頂けましたでしょうか。初日の午前中は小雨模様、午後からは天候に恵まれ安堵いたしました。大会終了後の15・16日は台風18号の影響で、お帰りの支障や錦地の被害はございませんでしたでしょうか、お伺い申し上げます。

本大会では、主催大学企画のシンポジウム、学会企画のワークショップ13件をはじめ、ラウンドテーブル3件、自由研究発表52件におよぶ会員の報告エントリー

がございました。そのうち報告者のやむを得ない事情によって、ワークショップ1件、自由研究発表2件のキャンセルがございましたが、おおむね例年通りの報告件数でした。また賛助会員によるブース展示が11件あり、初年次教育に関する書籍をはじめ、様々な補助教材の紹介・デモなどがあり、参加者との意見交換が活発におこなわれました。なお大会参加者数は413名、懇親会出席者数は186名で、盛会であったとよかろうと思います。

本大会のテーマは「初年次から始めるキャリア教育」でした。平成23年の大学設置基準の改正により、「キャリアガイダンスの義務化」が始まりました。これは教育政策上の重要課題であり、高等教育のみならず、初等・中等教育からのつながりが必要であることは申すまでもありません。これまでGPの支援事業、資金提供もありましたし、また大学コンソーシアムをはじめ、様々な学会やシンポジウム等において、テーマとして取り上げられてまいりました。

そのような中、「キャリアガイダンスの義務化」を実施するにあたり、各大学ではカリキュラムをどのように構成されているのでしょうか。キャリアの意味を狭義でとらえるか、それとも広義でとらえるかによって異なりますが、キャリア教育科目、職業教育科目、就職支援教育科目などの科目群の構築、あるいは自己理解・自己管理能力への注力、124単位全体での構築、さらには正課教育と課外教育との連携と関連性を強める等、大学の歴史・事情によって、多様な理解と運営がなされています。またキャリア教育は、大学内部だけで解決するものではなく、産業界とのつながりを考慮しなければならなくなって参りました。とくに大学と産業界との間に存在する、教育に関する意識のズレにも留意しなければなりません。要するに大学は、産業界からのニーズを強く認識せざるを得なくなっているということです。

このように、キャリア教育の運営、問題点等は多岐にわたっており、本シンポジウムですべてが解決できるわけではありませんが、何か一つでも勤務先で活用・採用できるものをお持ち帰り頂ければと考え企画した次第です。そのためか、自由研究発表でもキャリア関係の報告が9件あり、関心の高さが示されたものと存じます。

ただ、シンポジウムの進行がうまくいかず、パネルディスカッションは消化不良であったことをお詫びするとともに反省しております。

また今回初めて職員同士の意見交換の場をラウンドテーブルにおいて、「初年次教育における職員の役割について」と題して企画しました。職員主体と教職協働による初年次教育への取り組みの具体例と成果、またその計画・実施過程において生じた問題をどのように解決したのかなどについて2大学が報告し、職員各位が自由に討論できたことは、喜ばしいことでありました。参加者のほとんどが次回大会以降もこの種のセッションの企画を望んでいらっしゃると思いますので、続行に期待いたします。

大会運営の面では反省点が少なくありません。空調の調節がうまくいかず、涼しさを超えた室温になりがちで、申し訳ございません。受付も若干混乱し、事前申し込みをされた会員のお名前が見当たらないことや領収書の間違いもあり、ご迷惑をおかけしました。懇親会では「金沢らしい料理がない」とのお小言も頂戴しましたが、季節とケイタリングとの関係で生ものは控えていただきました。その代わりとしてはなんですが、近年著名になってきた「金沢カレー」を盛りこみました。他にも多々行き届かないことがございましたが、ご寛恕願います。

お褒めに預かったこともございました。夏季休暇中にも関わらず、事前準備と大会当日の運営に協力してくれた学生スタッフの24名の仕事ぶりです。考えながら動いているな、と手前味噌ではありますが、大いに見直した次第です。中でも好評だったのはキャンパスツアーでした。当初、1名の学生で10名程度の参加者をご案内する予定でしたが、当日は5名程度に改め、学生の説明が十二分にお聴きとれるようにいたしました。

ツアーは【Aコース：学生の学習支援施設とプロジェクトデザイン教育】①夢考房26（ものづくり）②23号館（数理工教育研究センター・基礎英語教育センター・学生ステーション・スタジオ）③7号館（自習室、プロジェクトデザイン教育関係施設と資料）、【Bコース：学

生のプロジェクト活動と図書館】①夢考房 41 (プロジェクト活動) ②6号館 (LC:図書館・マルチメディア考房) の2コースで、Aコースに27グループ89名、Bコースに13グループ44名の参加者があり、ツアー終了後に参加者から拍手がわき起るなど、大変な盛況でした。

最後に本大会の企画・準備・運営に携わっていただいた実行委員各位に、あつく御礼を申し上げます。3月30日の第1回実行委員会から隔月で5回、大会前日の設営、大会3日間の運営・座長・司会など、手弁当でご協力を頂きました。以下敬称を略しますが、学外の渡辺達雄(金沢大学)、垣花渉(石川県立看護大学)、岡野絹枝(金城大学短期大学部)、本田康二郎(金沢医科大学)、辰島裕美(北陸学院大学短期大学部)、長久保実(金沢星稷大学)、および本学の木村竜也、金光秀和、伊藤大輔、石川倫子、陳淑茹、清水節、東俊之、鈴木貴士、川尻達

也の委員各位のご尽力なしでは、大会の成功は到底なしえなかったものと存じます。

また多忙な学務の合間を工面し、学会事務局を兼務しながら、大会事務局員として膨大な準備作業を手際よく進めていただいた西村秀雄、西誠、柄内文彦、長山恵子、八尾智子の各位には、格別の感謝とねぎらいを送りたく存じます。ご苦労様でした。

本大会は、会員各位のご参加とご協力とによって、成功裡に終えることができました。誠にありがとうございます。

今回は平成26年9月4・5日に奈良の帝塚山大学での開催予定です。会員各位の発表エントリーに大いに期待しつつ、またお会いいたしましょう。

(本稿は学会誌第6巻掲載の再掲です)

5. 第7回大会について

第7回大会実行委員長 岩井 洋 (帝塚山大学)

第7回大会は、2014年9月4日(木)と5日(金)の両日、奈良県の帝塚山大学(奈良・東生駒キャンパス <http://www.tezukayama-u.ac.jp/aboutus/campus/higashiikoma.html>)で開催予定です。現在、実行委員会において企画・プログラムの詳細を検討中です。なお、4月に入りましたら、大会のウェブサイトを公開する予定です。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

6. 地域研究フォーラムの開催について

井下 千以子 (桜美林大学)

学会の研究活動のさらなる促進と、我が国の高等教育における初年次教育の役割の強化と質的向上に向けた研究集会「地域研究フォーラム」が、2014年2月8日、岩手大学において開催されました。東北・北海道地区はもとより、全国各地から会員はじめ高等教育関係者の方々を含め、80名を超える参加者がありました。

今回のフォーラムのテーマは「高大接続と初年次教育」で、詳しい内容は下記の通り。

(1) テーマ:「高大接続と初年次教育」

現在、中教審の高大接続特別部会と初中等分科会高校教育部会では、大学入試センター入試を含めた、高大接続の在り方の根本的見直しを検討しています。教育界のみならず、産業界をはじ

めとする社会全体、高校、マスコミ等から大きな関心を集めつつある焦眉の問題は、初年次教育の今後の在り方についても大きな影響を及ぼすこととなります。

シンポジウムでは、文部科学省、本学会のそれぞれの場でこの課題に関与している登壇者によって、これからの高大接続と初年次教育の関係を考えていくため、改善に向けた現実的な議論が展開されました。さらに、東北・北海道地域の会員から、初年次教育の実践報告があり、活発な情報の交流がおこなわれ、盛況のうちに会を終えることができました。

(2) プログラムの進行

- ① 開会挨拶 安永悟会長（久留米大）
- ② シンポジウム 「高大接続の新段階と初年次教育の在り方」
司会 川嶋太津夫（大阪大）
- 「高大接続・大学入学者選抜の改善について」
平野 誠（文部科学省高等教育局大学入試室長）
- 「大学教育の質保証と入学前教育の課題」
井下千以子（桜美林大）
- 「高大接続をめぐる課題と学生支援型 I R の活用」
濱名 篤（関西国際大）

③ 地域における初年次教育の実践報告

- | | | |
|------|---------|--------|
| 報告 1 | 岩手大学 | 江本 理恵 |
| 報告 2 | 千歳科技大 | 今井 順一 |
| 報告 3 | 北海道工業大学 | 塚越 久美子 |

7. 編集担当より

(1) 賛助会員による広告添付について

賛助会員には、年 1 回、会員への情報提供の際に、無料で 1 ページ分の広告添付が認められております。本学会ニュースレターでは第 4 号より、それまでのメール添付ではなく、**学会ウェブの該当箇所** <http://www.jafye.org/index6/nl6.html> に本文（このファイル）および広告データを次号刊行まで掲載することにいたしました。

なお、学会および学会事務局は、これらの広告内容に関与しておりません。

(2) 実践事例の募集について

ニュースレターに掲載すべき実践事例や事例紹介などを募集しております。掲載ご希望の方は学会事務局にお知らせください。

(3) 事務局業務委託に伴う諸変更について

本文でも言及しております通り、事務局業務の委託に伴ういくつかの変更につきましては、改めてメール等で承知いたします。

(4) 第7回大会ウェブサイトについて

4月中旬ごろに開催校による大会サイトが公開されましたら、学会サイトからリンクを設定しますので、ご確認ください。

(編集 広報・情報化担当)

(2014年3月31日第1版公表)

(2014年4月1日9時30分修正版公表)